
泪色の歌

m i s s

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

泪色の歌

【コード】

N0926B

【作者名】

miss

【あらすじ】

まだ吸血鬼がいた頃のお話、吸血鬼と人間の混血の少女フォーマー、彼女の母がそうである様に彼女も人間に恋をしてしまう。人間との恋に揺れ動くフォーマーの心・・・人間と吸血鬼って恋をしてもいいのでしょうか？

1 滴

この体には魔力が宿っている

なぜって？そんなの私にだって分からない

でも1つだけ分かるのは、人間と吸血鬼の混血だという事

今からずっと昔・吸血鬼は神様の子として人々は崇めていた

．．．でも、いつしか人間は吸血鬼狩りをするようになったの．．．

吸血鬼は人を襲うから殺されて当然って思うかもしれないけど

2

本当の吸血鬼は人の病気を吸い取るの

なのに人間は、あんな根も葉もない噂を流し吸血鬼を殺していった

吸血鬼である私の母も

そして人間である父まで殺めた

神がこれを許しても

私は決して許さない

2 滴

吸血鬼は、白い肌・黄金色の瞳そして
鎖骨の間に神美球しんびきゅうと呼ばれる玉が埋め込まれていた

神美球は吸血鬼の命の源で美しかった

純血の吸血鬼の神美球は赤く怪しげに光っている
でも混血の神美球は7色に輝く不思議な玉だった

私は、人間と吸血鬼の混血で
神美球も皆と違う

他の吸血鬼の赤く美しい神美球が羨ましくてたまらなかった

でも、羨ましくも7色に輝く自分の玉が誇りでもあった

そしてもう1つ吸血鬼の特徴
美しい歌声だった……

その歌声は時に人を眠らせ

時に人を癒し

時に人を殺めるまでの魔力持っていた……

さつきからずつとしゃべっている私の名前は
フォマール＝レッドフィーラ

私は、白い肌・黄金色の瞳・神美球
すべて母親ゆずりの吸血鬼だった・でも私は……

人間の病気を吸い取る事が出来なかったそう……姿かたちは吸
血鬼でも

中身はカラッポ……

人を助ける事が出来ない
役立たずだった……

だから、

人間と恋におちた母を怨んだ事もある
人間である父を怨んだ事もある……

でも、そんな事誰にも相談できなかった
だから私はその気持ちを歌にした

森の奥深くの小さな湖に向かって歌い続けるの
そうすると気持ちりが治まり少し笑顔になれた

こんな私の悩みを湖は黙って聞いてくれた
すべて聞いてくれた……

そんな私だけの秘密の場所

これからもずっと私だけの場所のはずだったのに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0926b/>

泪色の歌

2010年10月28日07時57分発行